

[8月刊]

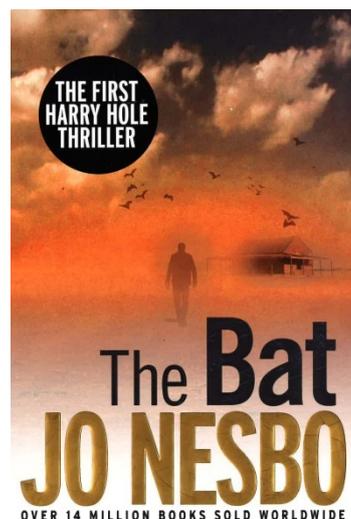
『ザ・バット(仮題)』ジョー・ネスボ 戸田裕之/訳

「ガラスの鍵」賞を受賞したハリー・ホーレ・シリーズの第1作。オーストラリアの社会情勢と原住民アボリジナルの伝承を背景に、連続殺人の犯人探し(どんでん返しに次ぐどんでん返し)が描かれる。シリーズ第4作エドガー賞長編賞ノミネート『NEMESIS』(原題)も2015年刊行予定。

編集は集英社クリエイティブになります。

『ミリオン・ダラー・アーム』 J.B.バーンスタイン 横山啓明/訳

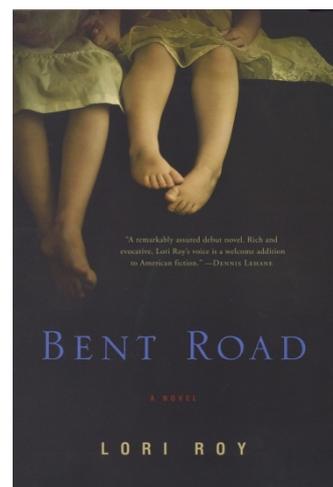
超有名スポーツ選手エージェントの著者は、ある日、大学生アスリートから、契約の見返りとして大金を要求される。次代を担う若手スポーツ選手たちの金満ぶりに失望したJBは、野球が定着していないインドで有望な若者を探そうと旅に出る。若者ふたりをアメリカに連れて帰り、大リーグのチームと契約を結ぶまでに育てあげ、親子にも似た絆をはぐくむまでを記した実話。ディズニー配給の映画が秋に日本公開予定。



[9月刊]

『ベント・ロード』ローリー・ロイ 田口俊樹/訳

1960年代後半のアメリカ。アーサーとシリアの夫婦は3人の子供に恵まれ、デトロイトで幸せな結婚生活を送っていた。折りしも黒人による暴動が頻発するようになり、娘の安全のためにアーサーは一家を引き連れて故郷カンサスに移住する。実は25年前、アーサーの姉イヴが若くして不慮の死をとげ、その5年後、狭小なコミュニティに嫌気がさしたアーサーは二度と戻らない覚悟で町を後にしたのだった。一家が戻ったとたん、ふだん事件など起こらない平和な田舎町で、亡き姉イヴと似たタイプの少女が失踪する。25年前の事件と同一犯なのか。一家は過去と対峙することになる。ある家族の和解と再生の物語。2012年度 エドガー賞新人賞受賞作!



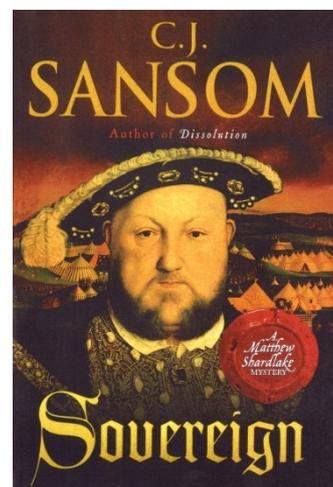
『支配者 チューダー王朝シャードレイク(仮題)』

C・J・サンソム 越前敏弥/訳

英国で大人気、CWA賞受賞シリーズ第3弾。ヘンリー8世の巡行に同行した弁護士シャードレイクが、ヘンリー王在位の正統性を否定する陰謀に巻き込まれる。キャラクターの描き方が絶妙にいい。

『壊れた玩具たちの夏(仮題)』トニ・ヒル 宮崎真紀/訳

スペインのベストセラー警察小説。財界大物の息子の転落死の捜査を通し、家族関係やいじめ、虐待、麻薬、階級差といったバルセロナ社会の暗部を浮き彫りにする見事な群像劇ミステリー。



[10月刊]

『**霊の棲む島**』カミラ・レックバリ 富山クラークソン陽子 / 訳

初夏の明るい夜、なぜ女は血塗れの手でハンドルを握り、邪悪な伝説の残る通称「幽霊島」へ急いだのか。スウェーデン発 エリカ&パトリック事件簿シリーズ佳境の第7弾！

『**THE HUNDRED-FOOT JOURNEY(原題)**』R・C・モレス 中谷友紀子 / 訳

S・スピルバーグ&O・ウィンフリー製作の映画化作品原作。悲劇を逃れてフランスにやってきたインド人家族と、地元で高い評価を受けるレストランの女性支配人とのバトルを描いた、心温まりお腹が空いてくる物語。

[11月刊]

『**渚の忘れ物 失業記者ジム・ジュリーの事件簿**』

コリン・コッタール 中井京子 / 訳

CWA賞ノミネート作品。<老検死官シリ先生>シリーズの著者による、タイのリゾートが舞台のミステリー。タイが抱える社会問題を描きながらも、どこかずっとぼけたムードに癒される逸品。

[12月刊]

『**HELSINKI WHITE(原題)**』ジェームス・トンプソン 高里ひろ / 訳

カリ・ヴァーラ警部シリーズ、フィンランド発ハードボイルドミステリ第3弾。国家警察長官が直々に組織した、非合法の特殊部隊のリーダーに任命されたカリが、麻薬&ギャングの抗争に巻き込まれる...！

[2014年秋～冬刊行予定]

『**デッドライン(仮題)**』サンドラ・ブラウン 林啓恵 訳

戦取材の酷い後遺症に悩む記者ドーソンは養父に勧められある男の失踪事件取材するが、証人として法廷に立った男の妻に強く惹かれ...。ラブ・サスペンスの女王最新作。

[そのほか]

『**FACEOFF(原題)**』ディヴィッド・バルダッチ編 田口俊樹 / 訳

ディーヴァーほかベストセラー作家2人が2人一組となって共作！
人気キャラクターをコラボさせた11作を集めた、夢のミステリ短編集。

『**GERMANIA(原題)**』ハロルト・ギルバース 酒寄進一 / 訳

1944年ベルリン、混乱の最中、ユダヤ人刑事がナチス関係者の連続殺人事件の捜査に呼ばれる。彼は命の保障の無のまま事件を解決し、生き延びることができるのか？ 危険な戦いが始まった。

